

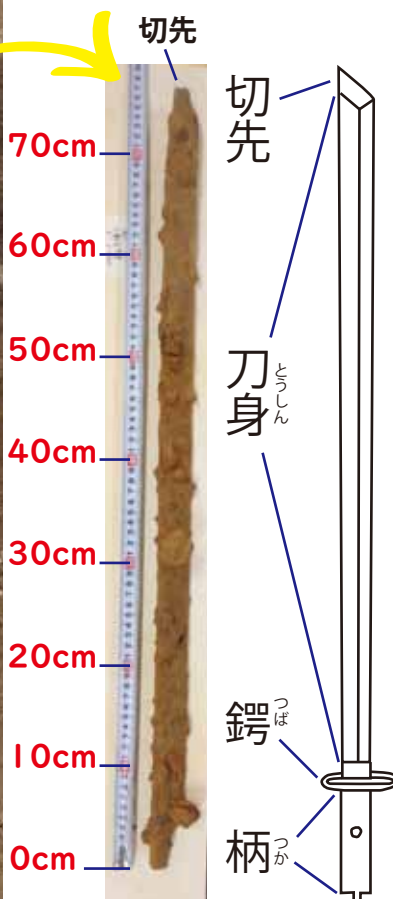


長谷寺横穴墓群の前庭部の調査を進めていくと、土器とは違う新たな遺物を発見しました。発掘調査その1でもこれまでの調査の様子を紹介しています。ぜひそちらもご覧ください。

前庭部と羨門の境目に、「刀」が
切先を下にして立てかけるようにし
て置かれていました。



刀の拡大写真



持ち帰って土や汚れを落としてみると、全長 70 cmを超える大きな刀であることが分かりました。このような、切先から刀身、柄の先端まで反ることなく一直線につくられた刀は「直刀」とよばれ、古墳時代の刀に多い特徴です。左の刀の写真には鍔がありませんが、刀のあった近くから鍔の一部とみられるものも見つかっています。

